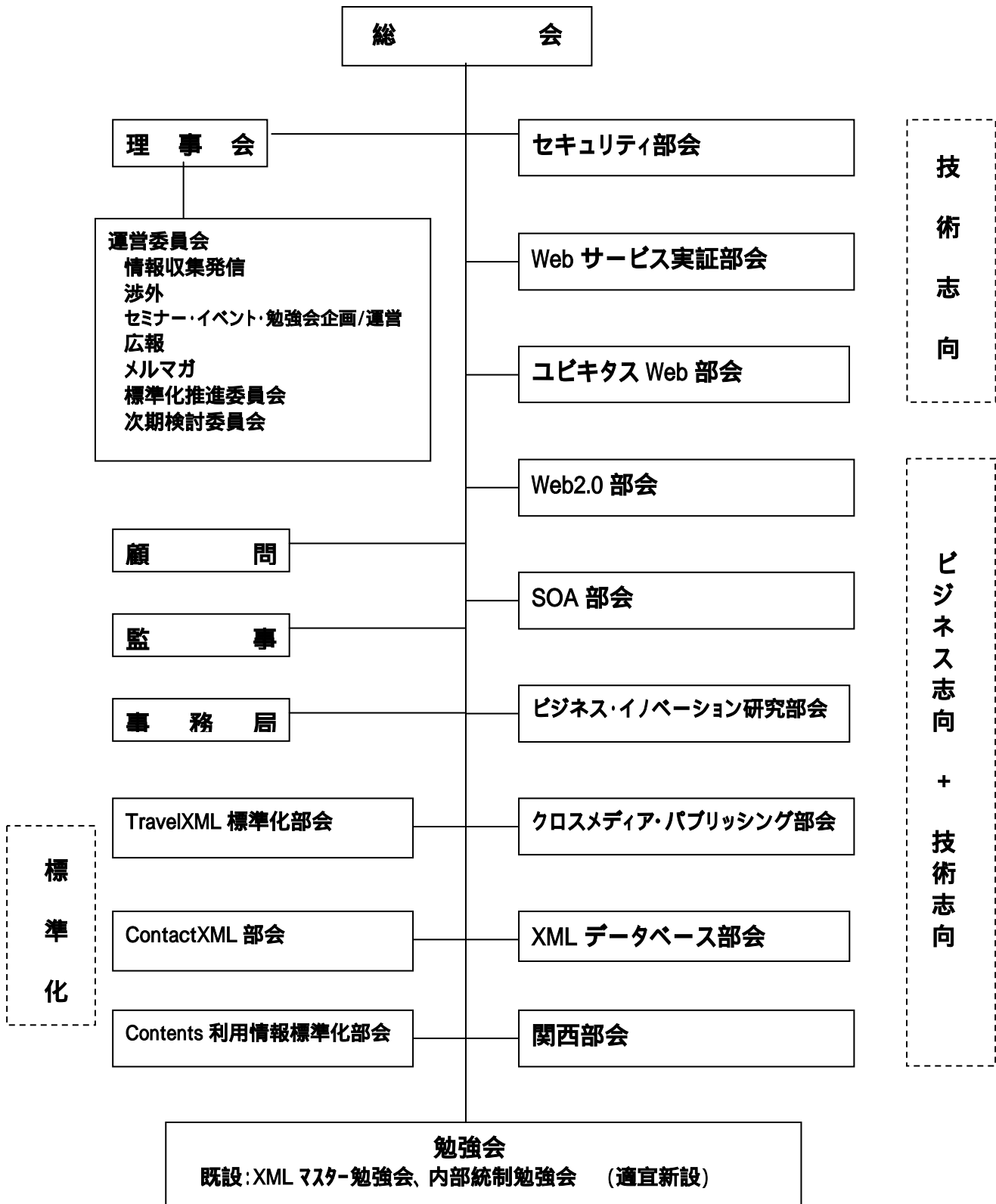


XML コンソーシアム 部会紹介セミナー

1 . 2007 年度 XML コンソーシアム組織.....	1
2 . 2007 年度部会・勉強会活動計画.....	2
(1) SOA 部会.....	2
(2) ビジネス・イノベーション研究部会.....	5
(3) セキュリティ部会.....	7
(4) Web サービス実証部会.....	10
(5) Web2.0 部会.....	12
(6) コピキタス Web 部会.....	15
(7) クロスメディア・パブリッシング部会.....	17
(8) ContactXML 部会.....	20
(9) TravelXML 標準化部会.....	21
(10) コンテンツ利用情報標準化部会.....	23
(11) 関西部会.....	25
(12) XMLDB 部会.....	28
(13) XML マスター勉強会.....	30
(14) 内部統制勉強会.....	31

1. 2007 年度 XML コンソーシアム組織



2. 2007 年度 部会活動計画

(1) SOA 部会活動要綱案

目的

SOA(Service-Oriented Architecture)とはビジネスレベルの"サービス"を組み合わせてアプリケーションの連携や統合を行なうシステム構築の考え方をいう。当部会の目的は抽象的な SOA の概念から具体的なビジネス面でのメリット、システム設計/実装の方針、Web サービスの有効活用の方法等を導きだすことである。さらに得られた情報や知見を外部に発信することで SOA や Web サービスの普及・発展に貢献することを目指す。

活動内容

以下のテーマを中心に活動を行う。

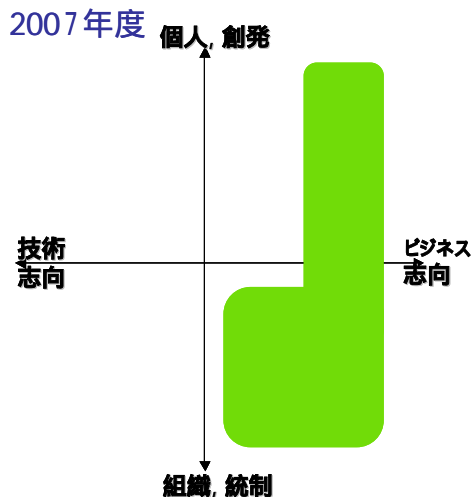
- サービスの記述、発見、合成、実装に関する規格・技術の調査
- SOA によるプロセス統合、B2B、EC 等の実現事例の収集と分析
- SaaS ビジネスと SOA との関連の調査
- SOA や Web サービス関連ツール(開発環境、実行環境)の調査
- SOA の意義の認知や普及のための情報の発信
- SOA 実現に必要なノウハウ、アーキテクチャパターン、デザインパターンの収集と蓄積
- ビジネスモデルの定義から Web サービスによる実装に至る SOA 適用シナリオの作成
- AJAX やリッチクライアントなどの技術のトレンドと SOA との関連の調査

2007 年の重点施策

2006 年度に引き続き、SOA を活用したビジネス及び IT の具体的な実現イメージを、開発者/ユーザへ提示することを重点施策とする。SOA の開発ツールや実行環境が整備されてきた状況に鑑み、SOA 開発プロセス(の一部)を実践してみて部会での議論を深化することを検討する。更に、SaaS と SOA との関連を紐解き、SaaS ビジネスにおける SOA との関連 / SOA の適用効果等についても検討を行う。

2007 年の活動の位置づけ

活動内容の位置づけを下図に示す。



活動方法

- 月例ミーティングでの Face-to-face のディスカッション
- メールリストによる日々の情報交換、ディスカッション
- ビジネスイノベーション研究部会とのコラボレーション(ミーティングの同日開催、メンバー交流)
- 参加メンバー個人による個別テーマや事例の調査
- XML コンソーシアム他部会等との協調による普及推進
- Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
- XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告

ワーキンググループ

ワーキンググループの構成や活動形態については、2007 年度の最初のミーティング(6 月を予定)で協議の上、決定する。

対象者

SOA や Web サービスを活用した IT システムの実現や、そのビジネス応用について興味をお持ちの方。

会員メリット

- SOA 関連情報・ノウハウの獲得
- 参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

体制

リーダー / サブリーダーは 2007 年度の最初のミーティング(6 月を予定)で決定する。

- 候補
 - 牧野友紀 日本ユニシス(株)
 - 天野富夫 日本 IBM(株)
 - 日力俊彦 日本 IBM(株)

[2006 年度 SOA 部会活動実績]

部会ミーティング

ビジネスイノベーション研究部会と共催で 2006 年 7 月 - 2007 年 5 月まで毎月 1 回、計 10 回開催
主な議論のテーマ

- サービスの記述、発見、合成、実装に関する規格・技術の調査
- SOA によるプロセス統合、B2B、EC 等の実現事例の収集と分析
- SOA や Web サービス関連ツールや開発環境、実行環境の調査
- SOA の意義の認知や普及のための情報発信
- SOA 実現に必要なノウハウ、アーキテクチャー・パターン、デザインパターンの収集と蓄積
- ビジネスモデルの定義から Web サービス実装に至る SOA 適用シナリオの作成
- AJAX やリッチクライアント等の技術のトレンドと SOA との関連の調査

成果発表(ビジネスイノベーション研究部会と共同)

第 5 回 XML コンソーシアム Week(2006 年 5 月 26 日)でのプレゼンテーション

- SOA ガイド
- SOA の図的表現
- サービス設計の Best Practice
- 初めての BPEL 体験
- クライアントシステムの技術動向

Modelling Forum 2006(2006 年 9 月 14 日、UML モデリング推進協議会主催)

- SOA の設計論 -ビジネスで使えるサービスを目指して-

第 6 回 XML コンソーシアム Week(2007 年 5 月 15 日)でのプレゼンテーション

- SOA 導入進捗度モデル
- サービス設計のベストプラクティス
- サービス連携における非機能要件設計上の考慮点
- SOA 環境におけるクライアントシステムの検討

成果物

技術評論社出版 「エンジニアマインド Vol.1 特集記事“はじめての BPM・SOA”」

コンソーシアム Day やセミナーでのプレゼン発表資料(Web で公開)

- SOA ガイド
- SOA の図的表現
- サービス設計の Best Practice
- 初めての BPEL 体験
- クライアントシステムの技術動向
- SOA 導入進捗度モデル
- サービス設計のベストプラクティス
- サービス連携における非機能要件設計上の考慮点
- SOA 環境におけるクライアントシステムの検討

(2) ビジネス・イノベーション研究部会活動要綱案

活動目的

ビジネス環境の変化に俊敏に対応し、経営戦略上の施策を実現するために、これまで以上に広くかつ密接に IT を活用することが不可欠となっている。具体的には、昨今、日本版 SOX 法の適用など内部統制の強化、SaaS 利活用による情報化戦略の見直しなど企業共通の重要な経営課題になっている。また、現場のグループや個人の多様性を活かし互いに協調することで創発性を引き出す考えに注目するようになってきている。これらの取り組みに情報システムが重要な役割を果たすことは論を待たない。

当部会では、XML、Web サービス、SOA、Web2.0 など技術が関連するビジネス・イノベーションを対象に、変革のプロセス、XML 関連技術の効果など調査研究を行う。

活動内容

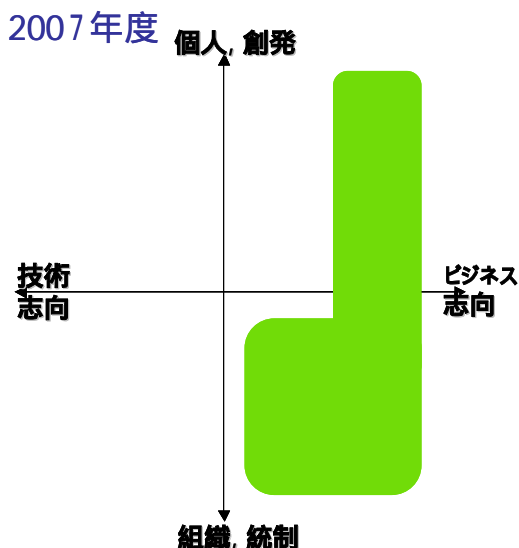
ビジネスの目標や計画を反映し業務と IT を関連づける方法

- ビジネスモデル定義方法、ビジネスプロセス・モデリング手法の研究
- ビジネスアーキテクチャとシステムアーキテクチャの関連付け方法の研究

エンドユーザ主導の情報活用の形態と必要な技術の研究

活動の位置づけ

活動内容の位置づけを下図に示す。



2007 年の重点施策

「役立つサービス分析法」プロジェクトの実施

企業内での SOA の浸透、SaaS ビジネスが台頭する状況において、長期間、多くの利用者に使われる付加価値の高いサービスを作ることが重要な課題となる。ゴール指向分析手法の一つである i* 法を活用し、利用者の目的に合致したサービスの同定方法を検討する。

活動方法

SOA 部会とのコラボレーション(ミーティングの同日開催、メンバー交流)

XML コンソーシアム他部会および他団体との協調による普及推進

月例ミーティングでの Face-to-face のディスカッション

メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション

参加メンバー分担による個別テーマや事例の調査

Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成

XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告

ワーキング・グループ

2007 年度最初の部会ミーティングにて、参加者の意向を集約し編成する。

対象者

IT ユーザー企業業務企画部門、IT ユーザー企業情報システム部門、S/W 提供ベンダー導入支援部門、SI ベ

ンダー上流工程担当部門等、ビジネスとITの関連付けや融合の方法について興味のある方。ビジネスプロセス・モデリング初心者参加を前提に活動する。

会員メリット

初級レベルから段階を踏んだメンバーのスキル・アップ
ビジネス中心のシステム開発アプローチの手法・ノウハウの獲得
参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

体制

リーダー/サブリーダーは2007年度の最初のミーティングで決定する。

候補

牧野友紀 日本ユニシス
天野富夫 日本IBM
倉澤良明 キヤノン
芦田尚人 プレイニークワークス

[2006年度ビジネス・イノベーション研究部会活動実績]

部会ミーティング

SOA研究部会と共催で2006年7月-2007年5月まで毎月1回、計10回開催
主な議論のテーマ

- ビジネスプロセス・モデルのモデリング手法の調査・研究
- ゴール指向分析手法(i*法など)の適用検討

成果発表(SOA部会と共同)

第5回XMLコンソーシアムWeek(2006年5月26日)でのプレゼンテーション

- SOAに繋ぐビジネスプロセスのモデリング
- ビジネスプロセスを基点にしたサービス導出の試み

Modelling Forum 2006(2006年9月14日、UMLモデリング推進協議会主催)

- SOAの設計論 -ビジネスで使えるサービスを目指して-

第6回XMLコンソーシアムWeek(2007年5月15日)でのプレゼンテーション

- 業務で役に立つサービスのあぶり出し方

成果物

技術評論社出版「エンジニアマインド Vol.1 特集記事“はじめてのBPM・SOA”」

コンソーシアムDayやセミナーでのプレゼン発表資料(Webで公開)

- SOAに繋ぐビジネスプロセスのモデリング
- ビジネスプロセスを基点にしたサービス導出の試み

(3) セキュリティ部会活動要綱案

- 活動目的
 - XML セキュリティ技術のビジネスシステムへの適用に向けて、標準的な技術仕様の調査・翻訳・解説を行ない、また、アプリケーションモデルの検討・試作を通じてシステム構築における様々な問題点の解決方法や具体的な実装ノウハウを蓄積すると共に、それらの成果物を公開することによりセキュリティ技術の理解と普及への助力となるべく活動を行なう。

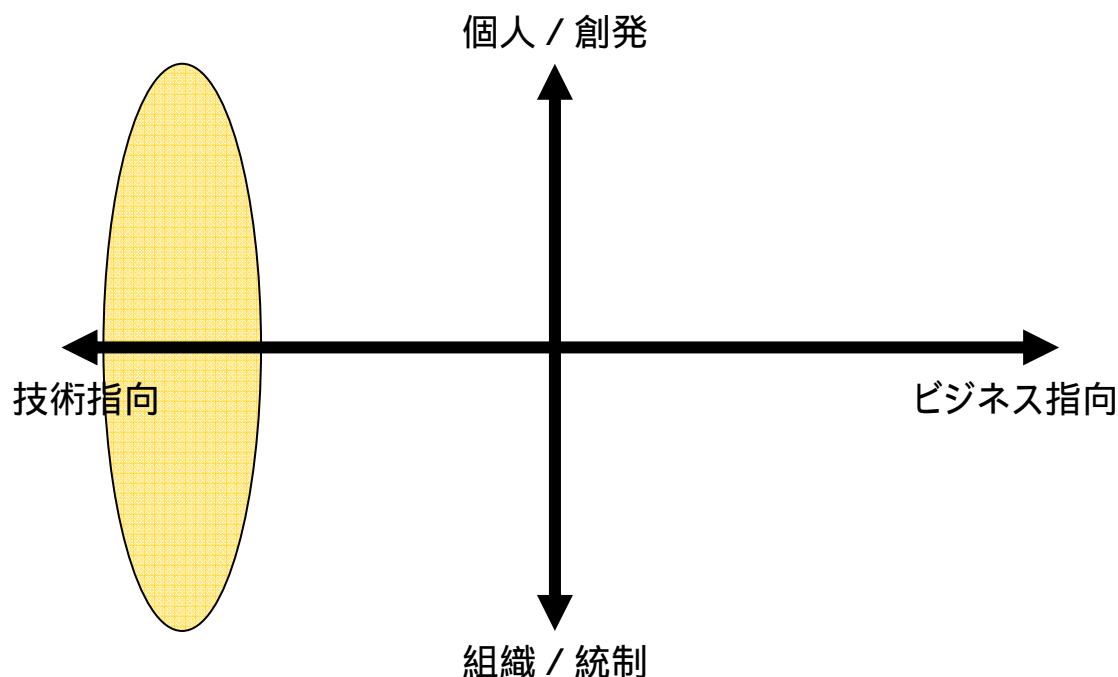
- 活動内容
 - 勉強会
 - ◇ セキュリティ技術の調査、解説
 - ◇ 開発ツール、ミドルウェア等の調査および比較検討
 - 翻訳
 - ◇ セキュリティ規格文書の翻訳
 - アプリケーションモデルの検討
 - ◇ ビジネス適用事例の調査、収集
 - ◇ システムモデルの構築
 - ◇ 試作による技術検証
 - 活動成果物の公開
 - ◇ 技術資料、解説書
 - ◇ 翻訳文書

- 活動方法
 - 各メンバー又はグループによる個別活動
 - ◇ 技術仕様の調査、翻訳など
 - ◇ 翻訳文書、Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
 - メンバー全員による月例ミーティング
 - ◇ 勉強会、調査報告、ディスカッション
 - メールングリスト
 - ◇ 日々の情報交換
 - セミナー
 - ◇ XML コンソーシアム Day、XML コンソーシアム Week での活動報告
 - ◇ 関連製品の紹介セミナーの開催
 - その他
 - ◇ XML コンソーシアム他部会および他団体との連携

- 会員メリット
 - XML 関連情報・ノウハウの取得
 - XML 技術動向の早期キャッチ・アップ
 - メンバーで膨大な情報を分担、料理した後、共有！
 - 将来ビジネス発掘のための基礎情報取得
 - 参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

- 体制
 - 活動開始後にメンバー間の互選にて決定の予定。
 - 候補者：松永(東京エレクトロン デバイス) 2004～2006 年度サブリーダー
 - 岡村(ネット・タイム) 2004～2006 年度リーダー

- 位置付け



【2006 年度セキュリティ部会活動実績】

- 活動目的

XML セキュリティ技術のビジネスシステムへの適用に向けて、規格の調査・翻訳・解説を行ない、また、アプリケーションモデルの検討・試作を通じてシステム構築における様々な問題点の解決方法や具体的な実装ノウハウを蓄積すると共に、それらの成果物を公開することによりセキュリティ技術の普及を促進させるべく活動を行なう。

- 活動内容

- 標準規格及び関連技術の調査、研究

- ◇ SAML(Security Assertion Markup Language) 2.0
- ◇ WS-Policy(Web Services Policy) - Framework
- ◇ WS-Policy - Attachment
- ◇ WS-SecurityPolicy (Web Services Security Policy Language)
- ◇ DSS(Digital Signature Services)
- ◇ DRM(Digital Rights Management)関連技術

- 実システムへの適用へ向けた検討

- ◇ DSSを用いたアプリケーション試作に向けての検討
- ◇ オフィス文書に対する電子署名サービスの適用
- Web サービス実証部会との合同による sPlat プロジェクト(昨年度より継続)
Web サービスにおける暗号化 XML データの取り扱いに伴なう問題点と その対策についての検討。
妥当性検証とデータバインディングを対象。

- 活動期間

2006 年 6 月 ~ 2007 年 5 月

- 成果物

- コンソーシアム主催セミナーでの発表

- ◇ 第 8 回 XML コンソーシアム Day (2006.12.12)
 - 「WS-Policy 仕様」
 - 「Digital Signature Service を用いた、アプリケーション試作に向けて」
- ◇ 第 6 回 XML コンソーシアム Week (2007.05.21)
 - 「オフィス文書と電子署名サービス」
 - 「MPEG-21 の技術基盤について」
 - 「ID 連携を実現する SAML 2.0 と ID 管理の最新動向」
 - 「Web サービスのセキュリティ規格の標準化動向」

(4) Web サービス実証部会活動要綱案

活動目的

Web サービスおよびXMLに加え、REST、Microformats、Ajax、Cometなどの基盤技術と、その応用技術の集大成でもあるWebOSを実システムに適用するにあたり、実ビジネスを想定したプロトタイプシステムの開発を通して、多くの技術者が抱えている技術的な課題の解決手段をみずから発見、公開し、XML/Web サービス利用技術の向上および普及に努める。

活動内容

プロトタイピング

- 実用システムのプロトタイプ開発
- WebOS技術の調査研究(WebOS上のコンポーネント連携、およびWebOS間連携技術の調査/研究)
- 要素技術が抱える課題を解決する手法/方式の提案とプロトタイプ開発
- XML応用規格を利用したプロトタイプシステム開発

XML/Webサービス関連プロダクトの評価

XML/Webサービス応用技術の普及・推進

- 定例セミナー・総会等での発表
- 学会、雑誌等での発表
- Webページによる情報の発信
- 製品紹介セミナーの開催

活動方法

メンバー全員を対象とする定例ミーティングの開催

- ワーキング・グループ別の月例ミーティングの開催
- 必要に応じて、ワーキング・グループを横断した活動を実施
- 製品紹介セミナーの開催
- メーリングリスト活用による日々の情報交換、Q&A等

他部会、他団体との連携

活動成果・メリット

XML関連情報・ノウハウの取得

- 評価・プロトタイピング:作成した評価報告書およびプロトタイプのソースコードの作成及び公開
- 製品紹介:各企業での製品利用のきっかけに利用してもらう
- 参加企業間での情報交換・人的/ビジネス・ネットワークの構築

情報公開

- Webサイトでの評価報告・プロトタイプの公開
- 学会、雑誌等での発表

参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

参加資格

XMLコンソーシアムの会員でWebサービスに関心があり、開発に参加できること

定例ミーティング又はメーリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

スケジュール概要

月1回の定例ミーティングの開催

XMLコンソーシアムとしてのイベント等に参加

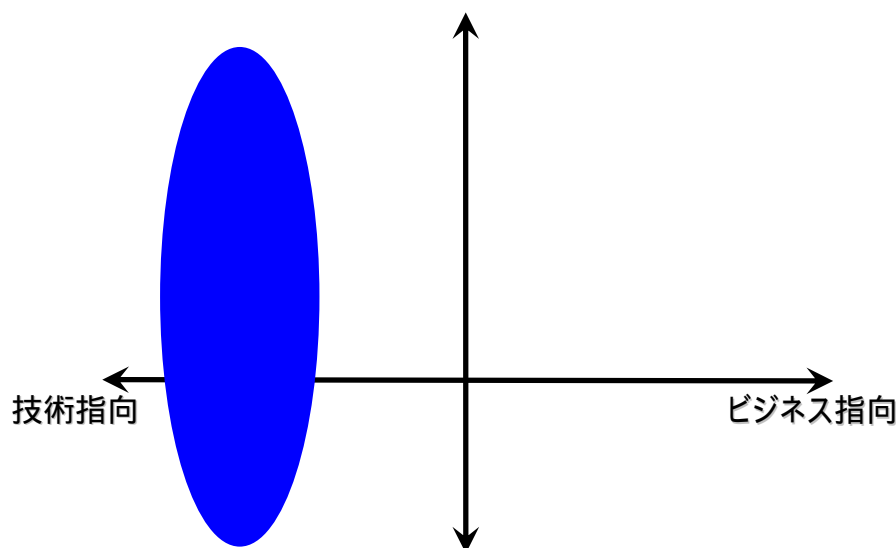
体制案

リーダー : P F U アクティブラボ株式会社)松山 憲和

サブリーダー: アドソル日進株式会社)荒本 道隆

位置づけ

個人/創発/クライアント中心/ボトムアップ/カジュアル



【2006 年度 Web サービス実証部会活動実績】

活動目的

Web サービスおよび XML に加え、Web2.0 の要素技術である REST, Microformats, Ajax などを実システムに適用するにあたり、実ビジネスを想定したプロトタイプシステムの開発を通して、多くの技術者が抱えている技術的な課題の解決手段をみずから発見、公開し、XML/Web サービス利用技術の向上および普及に努める。

活動内容

プロトタイピング

- 実用システムのプロトタイプ開発
- XML応用規格を利用したプロトタイプシステム開発

XML/Webサービス関連プロダクトの評価

XML/Webサービス応用技術の普及・推進

- 定例セミナー・総会等での発表
- 学会、雑誌等での発表
- Webページによる情報の発信
- 製品紹介セミナーの開催

活動期間

2006年6月 ~ 2007年5月

成果物

実証実験関係

セキュリティ部会と合同で暗号化 XML データ利用技術についての課題と対策について研究実証プロジェクトを実施

WebOS 製品調査結果

WebOS 上のアプリケーション開発

WebOS 間データ連携実験

セミナー発表関係

- 2006年12月 : 第八回 XMLコンソーシアム Day
- 2007年 3月 : 『地域情報プラットフォームフォーラム』にて、Web サービス実証部会が実施した、実証実験についてご紹介。
- 2007年5月 : 第六回 XMLコンソーシアム Week

一般公開資料

- 2006年12月 : 『道路交通情報 Web サービスを使った複合 Web サービス実証実験成果資料』を一般公開。

(5) Web2.0 部会活動要綱案

活動目的:

EnterpriseシステムのためのWeb2.0的な技術や思想の活用が広範に認知された2007年の状況を踏まえ、引き続き、その時点で要注目の技術要素を分析、検証し、代替技術と比較して論じ、それらの長を良く引き出すためのビジネスを予測してベストプラクティスを探索、追及する。そのためのプロトタイプ開発や、スケーラビリティやSLAの観点を含めた評価、類似技術、開発環境の比較調査、アプリケーションのアイデア出し等を行う。昨年度に引き続き、マッシュアップや、REST型Webサービスをとりあげるとともに、再度注目を集めつつあるフィード技術についてもビジネスに近い形で活用法を論じていきたい。また、"Web 2.0 for Enterprise" のベストプラクティスの1つとしてのSaaS (Software as a Service)の動向にも注目し、他の関連部会と連携して取り組んでいく。

背景:

2007年はエンタープライズ Web2.0 の年、と認知された感がある。2月に、1ユーザ年間 6000 円で可用性 99.9%を「保証」する Google Apps が登場、また、IBM が Websphere portal 上に Google Gadget をエンドユーザが容易にその場で組み込める仕組みを提供する協業発表があった。Salesforce.com の活躍に象徴される SaaS 利用による、エンタープライズ IT のサービス化の動きもいよいよ本格化している。SaaS の要素の多くは、Web 2.0 の原則と重なるものであり、マッシュアップや集合知の活用を实践する姿は、"Web 2.0 for Enterprise" そのものである。このように、エンタープライズ Web 2.0 活用の本格化の年となった、本年、2007 年度は、次のテーマ、方針、内容での活動を企図している。

活動内容:

- (a) エンタープライズ向け Web2.0 の全体像、哲学、利用者視点のビジョン、設計哲学、デザインパターンの調査
- (b) Ajax, マッシュアップ, REST 型 Web サービス等、Web2.0 の各技術要素の研究、試作・評価
- (c) エンタープライズ・ポータル、SaaS 活用、社内 Blog/SNS 運用など、ユーザ参加型コンテンツ収集・連携のモデル、アプリの検討
- (d) SaaS 事業化(提供側)、XBRL 活用、HR-XML 活用、RSS マーケティング、ロングテール等、ビジネス面の検討、予測
- (e) 複数 Webservice を使い分け、併用や、メタデータ活用に関する研究

重点施策

- (1) 開発者向けにとって有用な最新技術、部品、サービス製品動向のデモ入りの内部講演
- (2) 「入りやすさ」「関連 WG, 部会, 企業, 学会・研究会, マスコミ等との連携のしやすさ」を重視し、年度途中でも常

時参加を受け付け。

- (3) 多種のサービスを自ら試用しその体験をメンバーと共有する文化の醸成
- (4) その発展として関連研究を横断した Web2.0 的コミュニティの運用
- (5) IT 系マスメディア、イベントと連携した双方向知識貢献、知識更新

活動方法・報告・成果物

- ・メンバーによる月例ミーティング開催
- ・SNS、ブログ、メーリングリスト等による日常の情報交換、ディスカッション
- ・参加メンバー個人によるテーマ別の調査報告の実施
- ・XML コンソーシアムの他部会および他団体との協調による普及推進
 - Web サービス実証部会さんと WebOS 関連で
 - セキュリティ部会さんと Web 2.0 のセキュリティ対策について
 - SOA/BI 研究部会さんと SaaS と協調するエンタープライズシステムのアーキテクチャについて 等
- ・技術顧問(慶應&W3C 萩野教授, 名大吉川教授)ら識者を囲んだオープン・ディスカッション
- ・部会成果発表会(XML コンソーシアム Day, XML コンソーシアム Week 等)での活動報告
- ・外部イベント(Web 2.0 Expo 等)への参加

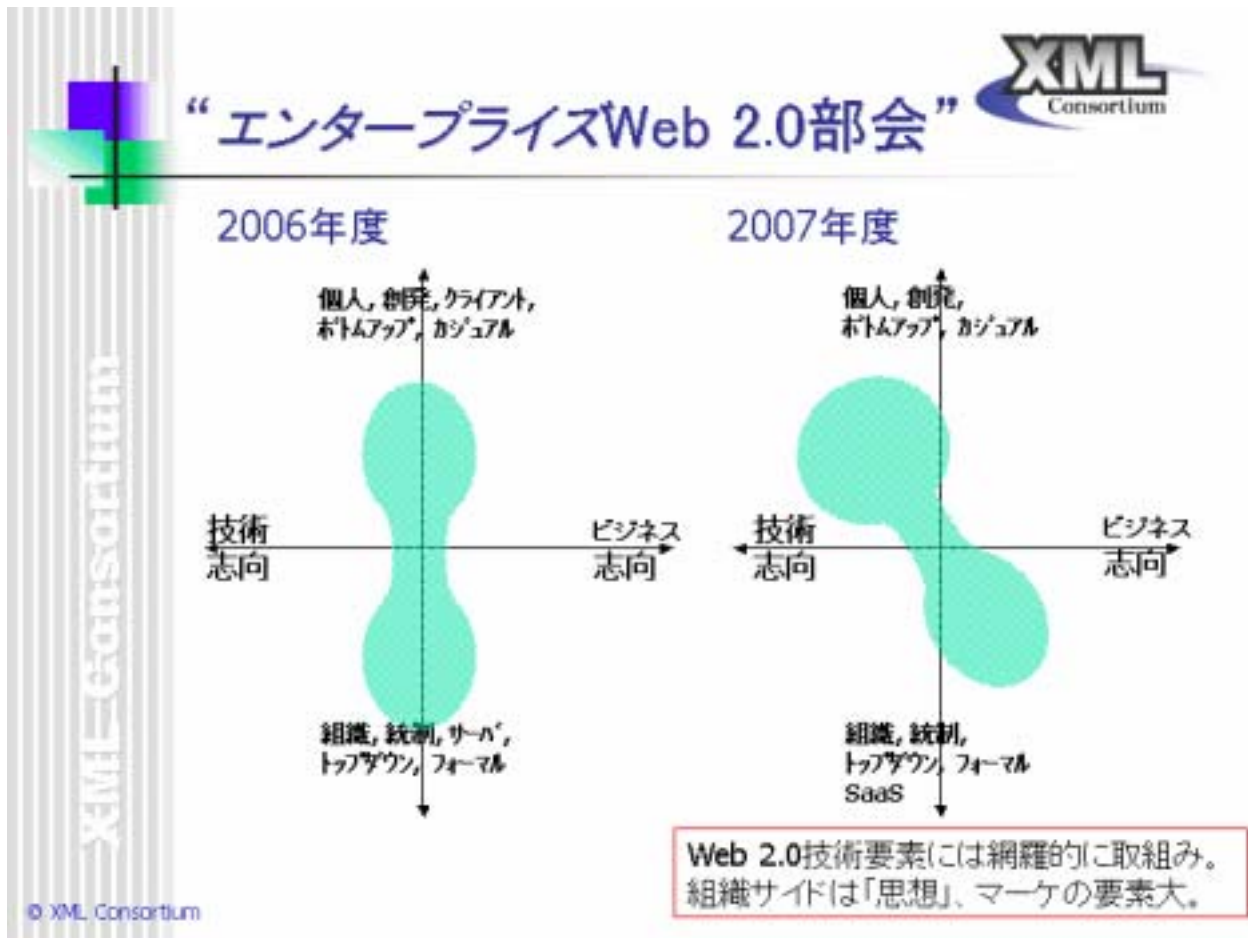
会員メリット

- ・エンタープライズにとっての Web2.0 関連の最新情報・技術・実装ノウハウの取得
- ・Web2.0 関連でオリジナルなアイデアを育て、試作に参加し、本格的な近未来体験
- ・将来アプリ、ビジネス発掘のためのビジネスアイデア発想の刺激豊かな環境
- ・エンタープライズ情報環境と個人情報環境の有機的統合を考える場への参加
- ・参加メンバー間の情報交換、人的ネットワークの確立(人材間のマッシュアップ)

連絡先

野村直之(メタデータ)、宮崎昭世(日立ソフトウェアエンジニアリング)、小林茂(日本ユニシス)、玉川竜司(Sky)、
 荒
 本道隆(アドソル日進)、八木一平(リクルート)

活動の軸(2006年度と対比)



【2006年度 Web2.0 部会活動実績】

扱ったテーマ:

- ・hon.jp等国産WebAPIの調査、試用。
- ・エンタープライズ・マッシュアップ方式の考案、調査・分類。
- ・Sun × リクルート第1回マッシュアップコンテストの受賞作品の試用、評価。
- ・xfy, c2talk他、マッシュアップ可能な専用クライアントの開発会社による紹介。
- ・Ajax等Web2.0的サービスの開発手法、開発環境。テスト・ツール。法的メタデータ。
- ・Ruby on Rails, Pythonに代表される軽量言語。
- ・Web2.0時代のSOA2.0 ~ REST準拠のサービスとSOAP/WSDLの使い分け、併用の検討。
- ・Web2.0のビジネスモデル。WebOS、SaaS。

活動形態・経緯:

部会発足の前後から年度末にかけて、下記の公開セミナーで Web 2.0 関連のテーマで次の講演:

2006.3: 第1回 Web 2.0 勉強会「なぜ XML コンソーシアムが Web 2.0 に取り組むか」

2006.4: 第2回 Web 2.0 勉強会「エンタープライズ・マッシュアップ！」

「魅力的なエンタープライズ・マッシュアップをどうやって考えるか」

「企業でのポータルとマッシュアップの利用について」;

「エンタープライズ向けに有用そうなマッシュアップのモデル、新機能案」

「エンタープライズ・マッシュアップの実際 ~ hon.jp 等の活用」;

2006.5: 第5回 XML コンソーシアム Week 2 日目: 「Web2.0 時代のエンタープライズシステム」

「メタデータ活用から "Web2.0 for Enterprise"へ」

「魅力的な Web2.0 的アプリケーションをどうやって考えるか」;
「企業でのポータルと、リッチ・クライアント、マッシュアップの活用」
「REST API + XSLT:エンタープライズ・マッシュアップの実際」;

2006.12:XML Day

「Web2.0 部会の活動経緯 ~マッシュアップコンテスト入賞作品の評価等」;
「エンタープライズ・マッシュアップを実行可能にする法的メタデータ CC の活用」;
「Web2.0 的機能の開発環境」; 「SOAP と REST ~メリット比較...等」;

2007.5: 第 6 回 XML コンソーシアム Week 1 日目: 「Webトレンド Day」:

「Ajax の開発環境」; 「LL(軽量言語)によるアジャイル・エンタープライズ開発」
「Feed2.0 on Web2.0」(株式会社サンブリッジ小川浩様基調講演)
「第 2 回マッシュアップ・アワードのご報告と今後の方向性」
「WebAPI, マッシュアップ・アプリの調べ方 2007 上期」
「エンタープライズ 2.0 における REST と SOAP の使いこなし」
「エンタープライズのプラットフォームとして台頭する SaaS と Web2.0 のビジネスモデル」

この他、月例の部会でも最新製品やサービスの開発者による講演を実施したり、様々な開発環境、ライブラリ調査法の比較など、到底個人や1社では網羅し得ない質と量の調査結果を共有することができた。Sun x リクルートさんのマッシュアップコンテストの受賞作品を手分けして試用評価する、といった、月例部会としては新しい試みを手がけることもできた。

代表的成果物

「エンタープライズ・システムのためのWeb 2.0」提言書

公開時期:2007年6月初頭

公開場所:XMLコンソーシアムサイト、インプレス殿のエンタープライズ系新サイト

(6) ユビキタス Web 部会活動要綱案

活動目的

ユビキタスをキーワードにした技術と将来像に焦点を当て、XML を活用し、市場、社会、家庭、人間に関わる分野への適用可能性を実証・検証することを目的とする。

活動内容

2005 年度に構築したユビキタスのモデルをさらに掘り下げ、最新の技術動向とこれまでの検討をベースに、E-book、PIM、Network 等の分野で、実証を伴った標準仕様案を提案していくことを目標とした活動を行う。このため、下記標準化組織の動向を注目し、必要に応じてそれぞれの標準化活動/グループと連携していくことを考えている。

- (1) W3C のユビキタス Web WG、複合ドキュメントフォーマット(CDF)WG
- (2) YRP ユビキタス研究所の T エンジンフォーラム
- (3) JEITA AV 機器標準化委員会
- (4) 日本規格協会ユビキタス社会を推進する情報基盤の標準化調査研究委員会
- (5) 画像電子学会 VMA 研究会

活動方法

- ・定例ミーティング(1 回/月)を活動の主体とする。ミーティングは連携する標準化活動と合同で行う。
- ・WG に分けずに全体で議論する形とする。なお、具体的なテーマや検討方法については部会にて議論し、決定する。
- ・ソーシャル・ネットワーク・サイト mixi を活用したディスカッションを行う。
- ・必要に応じて XML コンソーシアム他部会および他団体との交流を行う。
- ・Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツを作成する。
- ・XML コンソーシアム Day、Week 等にて活動を報告する。
- ・学会、他研究機関と連携する。

活動成果・メリット

- ・最新技術、動向の把握、スキルアップ
 - 標準化組織メンバーとの議論や報告に基づく最新技術、動向の把握
- ・技術標準の提案への参画と実証
- ・情報公開
 - 学会、雑誌等での発表
- ・参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立

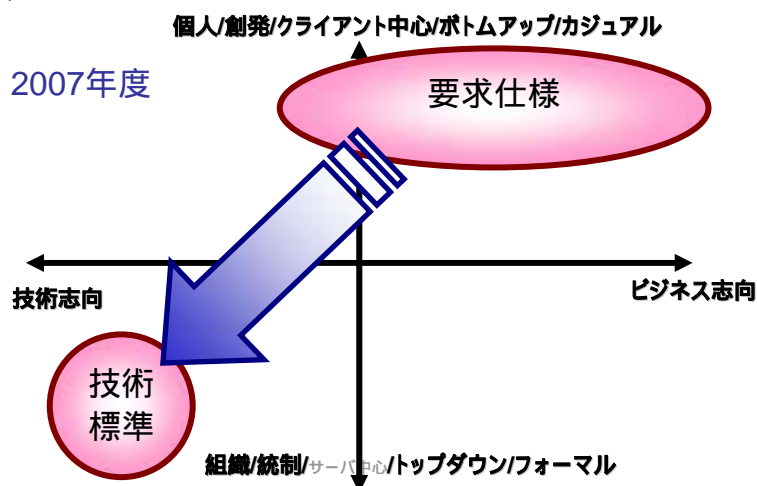
参加資格

- ・XML コンソーシアムの会員でユビキタス関係のシステム、機器やその利用方法に関心があること。特に、ユーザー企業からの参加を歓迎する。
- ・定例ミーティング等の活動参加できること。

体制

- ・リーダー
富士通 根岸寛明
- ・サブリーダー
日立製作所 大場みち子

位置づけ



[2006 年度ユビキタス Web 部会(旧“ユビキタス・組み込み系部会”)活動実績]

活動経過

部会創立 3 年目の 2006 年度は、これまでの調査研究活動をベースに、ユビキタスに関わる XML 関連技術を整理し、今後の技術を含めて市場、社会、家庭、人間に関わる分野への適用可能性を実証・検証することを目的として活動を開始した。ベストプラクティスの検討を進めていくにしたいが、実現性の検討を目指すとともに具体的な標準化を進める必要性を認識するに至り、後半は具体的な標準策定のための活動体制の検討に移行し、コンソーシアム外との連携が必須との結論に達し、部会名をユビキタス Web 部会と改称するとともに部会リーダーを交代し、新年度からは標準化活動の足場を JSA(Japanese Standards Association)等におき、密な情報交流を主体とした活動としていくことになった。

2006 年度部会の具体的なテーマは下記のとおりである。

第 1 回部会(2006.6.16)

「ユビキタス」という言葉の議論

ネットワークに関するベストプラクティスの紹介

Open Autonomic Network(OAN)の紹介

第 2 回部会(2006.7.19)

ベストプラクティスの議論

組み込みハード/ソフト関係製品・サービスの紹介

第 3 回部会(2006.8.29)

SNS(Social Networking Site)の現状や標準化に向けての動きの紹介

C2talk の紹介

第 4 回部会(2006.9.27)

テキストマイニング・ツールの紹介

ユビキタス参照モデルの検討

第 5 回部会(2006.11.1)

今後の活動についての討論

第 6 回部会(2006.12.20)

本会の検討対象の議論

ユビキタス端末のあり方の議論

産学官民連携の動き、標準化、プロジェクト、学会の現状について意見交換

今後の活動

第 7 回部会(2007.1.31)

今後の活動について討論

Opera(ユビキタス Web 端末)紹介

第 8 回部会(2007.3.5)

来年度以降の活動について議論

第 9 回部会(2007.3.26)

W3C ユビキタス Web WG のチェアマンとの意見交換方針について議論

第 10 回部会(2007.4.19)

W3C ユビキタス Web WG のチェアマンとの意見交換

(7) クロスメディア・パブリッシング部会活動要綱案

活動目的:

印刷出版業界で利用されている XML を調査し、XML コンソーシアム会員と情報を共有する。さらに今後 XML を活用できる場面を検討し、結果を XML コンソーシアムから印刷出版業界へ提示する。

XML コンソーシアムと日本印刷技術協会(JAGAT)のアライアンスにおける具体的手段として、XML 普及啓発の一端を担う。

背景:

JAGAT では、クロスメディアエキスパート認証制度をスタートさせ、印刷出版業界において、インターネットを含む多様なメディアへ出版する知識と技術を向上させる動きがある。要素技術には XML も含まれ、メタデータの活用も現実のものとなっている。

キーワード: CMS(コンテンツ管理システム)、クロスメディア、XSL-FO などのドキュメントに関するフォーマットおよびメタデータ、クロスメディア・マーケティング

活動内容:

今年度からマーケティング系と技術系の WG(ワーキンググループ)を作成する

下記を円滑に進められる方法をメンバーと検討しながら実現させていく。

- (1) 当部会と、JAGAT クロスメディア研究会の交流
- (2) 印刷出版業界の仮想顧客を想定し、XML の活用を提案書形式にまとめる。

続編、および別企業編

- (3) 技術系 WG ではコンテンツ用 XML インスタンスのクロスメディア展開と XSL-FO 実習

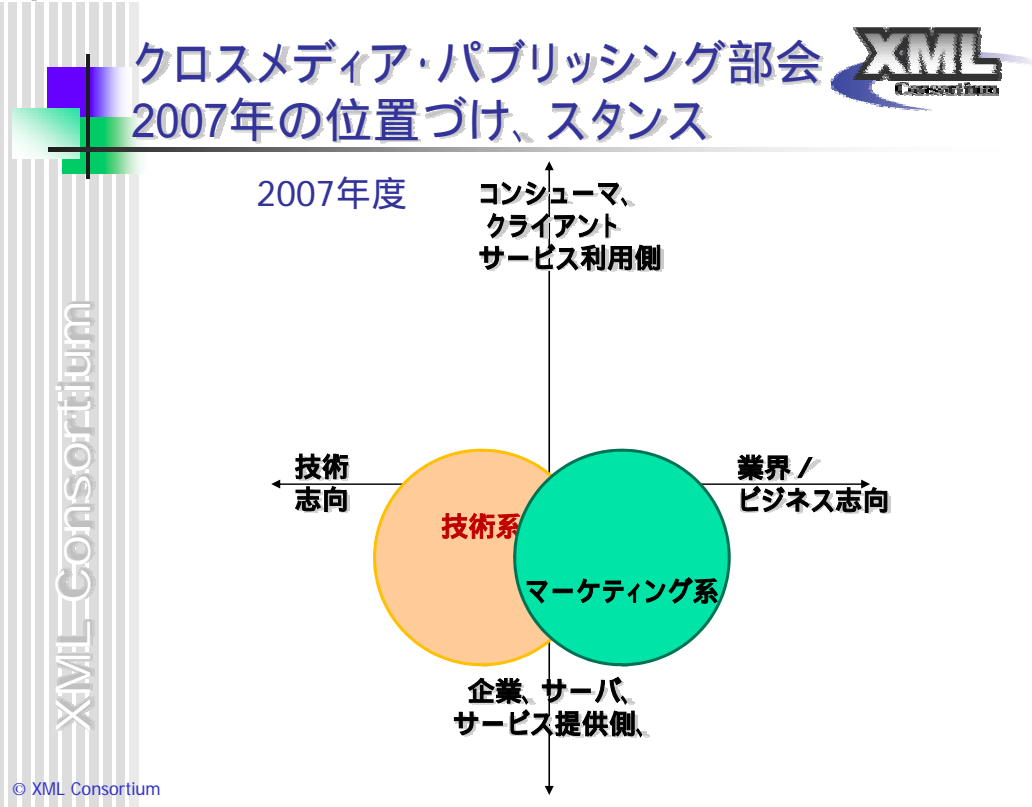
重点施策

日本印刷技術協会のクロスメディア研究会との交流と企業見学。クロスメディア展開の実際と XSL-FO 実習。部会メンバーの拡充。以上に関わる施策を重点とする。

目標は「印刷出版業界の現実を見据えた堅実な部会活動」。

活動方法・報告・成果物

- ・メンバーによる月例ミーティング開催。15:00-18:00
 - ・通信手段を利用した日常のディスカッション
 - メールリスト等
 - Web 会議(夜間、曜日と時間帯を決めて実施)
 - ・JAGAT クロスメディア研究会との交流会(拡大部会形式)
 - ・企業見学、展示会見学ツアー
 - ・XSL-FO 製品ベンダーとの情報交換
 - ・「クロスメディア・パブリッシングへの XML 応用 2007」を作成
 - ・部会成果発表会(XML コンソーシアム Day/Week 等)での成果発表
- 会員メリットおよび、期待する参加者
- ・印刷出版業界との交流を通じて業界知識を得ることができる
 - ・XML の応用方法を習得することができる
 - ・参加メンバー間の情報交換、人的ネットワークの確立
 - ・XSL-FO および XML インスタンスのマルチユースについて、実践的な知識が得られる
 - ・期待する参加者(下記ひとつで十分です):
 - 印刷出版業界に関連する方もしくは興味のある方
 - 自ら作業することを厭わない方
 - XSL-FO および XSLT の知識を身につけたい方、もしくは基礎知識をお持ちの方
 - 提言書などの執筆に協力できる方、絵図の描画が上手な方
 - 電話会議あるいはチャット会議などでのコミュニケーション確立に協力してくれる方



連絡先

イースト株式会社 藤原 隆弘 (fujiwat@est.co.jp)
国際新聞電気通信評議会(IPTC) NewsML1 メンテナンス WP 副議長
HR-XML コンソーシウム US 本部会員/Award Winner
日本印刷技術協会クロスメディアエキスパート認証制度検討委員
XML コンソーシウム XML エバンジェリスト/運営委員(渉外担当)

[2006 年度クロスメディア・パブリッシング部会活動実績]

活動目的:

印刷出版業界で利用されている XML を調査し、XML コンソーシウム会員と情報を共有する。さらに今後 XML を活用できる場面を検討し、結果を XML コンソーシウムから印刷出版業界へ提示する。

XML コンソーシウムと日本印刷技術協会(JAGAT)のアライアンスにおける具体的手段として、XML 普及啓発の一端を担う。

活動内容:

メンバーのスキルおよび希望により、「クロスメディアとは何か?」を焦点に活動を行った。

- (1) 当部会と、JAGAT クロスメディア研究会の交流(主に 7 月～9 月)
未達成。2007 年度に行う。
- (2) 印刷出版業界で利用されている XML の調査(主に 10 月～11 月)
部会メンバーで特に要望がなかったため未実施。
- (3) 印刷出版業界の仮想顧客を想定し、XML の活用を提案書形式にまとめる
5 月の XML コンソーシウム WEEK で発表した。続編あり。
- (4) XML コンソーシウムが考える今後の印刷出版業界での XML 活用方法を提示
2007 年度に再検討を行う。
- (5) [追加]クロスメディア企業の見学 読売新聞、報知新聞
- (6) [追加]メンバー企業の事例紹介 ピープルスタッフ、共同印刷、ベネッセコーポレーション
- (7) [追加]展示会見学ツアー
デジタルパブリッシングフェア、PAPIT FORUM、JGAS2007、PAGE2007
- (8) [追加]JAGAT クロスメディアエキスパート試験への受験奨励と勉強会

活動期間:

2006年6月 ~ 2007年5月

成果:

XML コンソーシアム DAY および WEEK への発表会資料としてまとめた。

- ・クロスメディア事例報告と展示会見学ツアー報告書
- ・提案書形式によるクロスメディア説明と XML 活用の紹介
- ・部会メンバーおよび上司へのアンケート結果

JAGAT クロスメディアエキスパート受験 6 名。全体の合格率は 27%に対して部会メンバーの合格率 66%。メンバーの資格保持者は 7 名。

(8) ContactXML 部会活動要綱案

目的

- ContactXML 仕様の普及活動を行う
- ContactXML 仕様を活用したビジネスへの後方支援を行う

活動内容

- ContactXML 仕様に関する情報の収集、交換ならびに提供を行う場としての部会及び「ContactXML.org」(ポータル・メーリングリスト)の運営
- ContactXML 仕様の普及活動
- 上記全成果物の XML コンソーシアムへのフィード・バックと承認申請

活動方法

- 必要に応じて下記の活動を実施する
 - メンバー全員による部会の開催
 - ContactXML メーリングリストを使用した意見交換

活動成果予定

- 仕様等の問い合わせに関する対応結果
 - 仕様に関する問い合わせや指摘事項が発生した際に生じた各種情報

参加資格

- コンタクト情報の記述・交換に関心があること。
- 定例ミーティング又はメーリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと。

スケジュール概要

未定

[2006 年度 ContactXML 部会活動実績]

目的

- ContactXML 仕様に関する制定・開発・情報公開・情報交換等の ContactXML 仕様の普及・啓蒙活動を行う
- ContactXML 仕様を活用したビジネスへの後方支援を行う

活動内容

- ContactXML 仕様の開発・制定・標準化
- ContactXML の適用研究・事例収集
- ContactXML 仕様に関する情報の収集、交換ならびに提供を行う場としての部会及び「ContactXML.org」(ポータル・メーリングリスト)の運営
- ContactXML 仕様の普及・啓蒙活動
- 上記全成果物の XML コンソーシアムへのフィード・バックと承認申請

活動期間

2002.1 ~

成果物

標準

- ContactXML Version 1.1a 仕様
- ContactXML Version 1.1 仕様
- ContactXML Version 1.0 仕様

(9) TravelXML 標準化部会活動要綱案

活動目的

旅行者、交通機関、宿泊施設、各種サービス機関との間で行われる、取引情報について、業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的とした電子商取引情報のXMLによる標準化提案を目指します。また特にパッケージ旅行商品に関する扱いについてのサポートを第一義の目的として検討します。

活動内容

必要に応じて以下の活動を行う。

- 旅行業業界における商取引についての調査と要件把握
- 旅行業業界における商取引のXML標準の改善検討
- 旅行業業界商取引のXML標準化情報 (Travel XML) の普及
 - = Webページ等による情報の発信
 - = XMLコンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動方法

必要に応じて以下の活動を行う。

- 月1回程度のミーティングの実施
- 商取引に関連する各旅行者との協力による業界情報収集
- メールングリスト活用による情報交換、ディスカッション
- 主幹事メンバーによる討議資料・報告書等のドキュメンテーション
- 他部会、他団体との連携

活動成果予定

未定

参加資格

XMLコンソーシアムの会員で旅行業界商取引の標準化に高い関心を有すること

定例ミーティング又はメールングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

スケジュール概要

今後部会にて検討を行う。

連絡先

活動内容についてのご意見・ご質問は以下におねがいします

xmlcons@fsi.co.jp

[2006 年度 TravelXML 標準化部会活動実績]

活動目的

旅行者、交通機関、宿泊施設、各種サービス機関との間で行われる、取引情報について、業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的とした電子商取引情報のXMLによる標準化提案を目指します。また特にパッケージ旅行商品に関する扱いについてのサポートを第一義の目的として検討します。

活動内容

TravelXML 標準案作成 (作成 WG)

- 旅行業業界における商取引についての調査と要件把握
- 旅行業業界における商取引のXMLによる標準化案作成

TravelXML 標準の普及・啓蒙 (普及 WG)

- 実装検証・評価
- Web ページ等による情報の発信
- XML コンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動期間

2003.2 ~

成果物

標準

- TravelXML Version 1.4 仕様(勧告)

報道発表

- 2006.6.1

「日本旅行業協会」と「XMLコンソーシアム」 「TravelXML」の XML Schema の標準化を全て完了、今後実用フェーズへ

～ 旅行業界における電子商取引の標準「TravelXML 1.4」勧告を発表～

コンソーシアム Day/WEEK での発表

- 2006.5.22

旅行業界の商取引向け XML 標準 - TravelXML 1.4 - の改定状況

(10) Contents利用情報標準化部会活動要綱案

目的

著作権者(著作権管理団体も含む)、コンテンツホルダー、配信事業者の間で行われるコンテンツ利用に使われる情報について業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的としたコンテンツ利用情報のXMLによる標準化提 案を目指します。

活動内容

必要に応じて以下の活動を行う。

- コンテンツ利用情報対象業務についての調査と要件把握
- コンテンツ利用情報のXMLによる標準化案(第2版)作成
- コンテンツ利用情報XML標準化情報の普及
 - = Webページ等による情報の発信
 - = XMLコンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動方法

必要に応じて以下の活動を実施する。

- 標準案作成中は月1回程度のミーティングの実施
- コンテンツ利用に関連する業界団体との協力による業界情報収集
- メーリングリスト活用による情報交換、ディスカッション
- 主幹事メンバによる討議資料・報告書等のドキュメンテーション
- 他部会、他団体との連携

活動成果予定

未定

参加資格

XMLコンソーシアムの会員でコンテンツ利用情報の活用で主導的なポジションにある著作権者(著作権管理団体も含む)、コンテンツホルダー、配信事業者、システム提供のSI企業、著作権許諾支援ソフト提供企業、その他著作権許諾情報に興味を持つ企業などのコンテンツ利用の商取引の標準化に高い関心を有すること

定例ミーティング又はメーリングリスト、総会・セミナー実施等の活動に参加できて、部会の活動に参加可能なこと

スケジュール概要

今後部会にて検討を行う。

連絡先

活動内容についてのご意見・ご質問は以下におねがいします

xmlcons@fsi.co.jp

[2006 年度 Contents 利用情報標準化部会活動実績]

活動目的

著作権者(著作権管理団体も含む)、コンテンツホルダー、配信事業者の間で行われるコンテンツ利用に使われる情報について業界での利用形態を調査・研究し、業界全体の効率化を目的としたコンテンツ利用情報のXMLによる標準化提 案を目指します。

活動内容

コンテンツ利用情報 XML 標準案作成(作成 WG)

- コンテンツ利用情報対象業務についての調査と要件把握
- コンテンツ利用情報の XML による標準の改善

コンテンツ利用情報 XML の普及(普及 WG)

- Web ページ等による情報の発信
- XML コンソーシアム他部会及び他団体との協調による普及推進・標準化支援等

活動期間

2003.2 ~

成果物
標準

- ContentsBusinessXML Version 1.0 仕様

(11) 関西部会活動要綱案

目的

関西で活動を行える会員間での、情報交換と交流を全体の目的とする。参加会員による活動内容の希望を尊重し、XMLを核とした情報交換を中心に地域に密着した活動を行う。更に、昨年度作成したWebサービスを有効に活用して実装技術の習得を行える環境を提供する。これらを通じて、関西でのXML、Webサービス、SOA、Web2.0等の普及活動の活性化に努める。

活動内容

XMLを根幹のキーワードにWebサービス、SOA、Web2.0に至るまでを、会員間の交流を主たる目的としながら、以下の活動を行うこととする。

各要件に対してはサブグループを構築し活動を行うが、定例部会では全員を対象として、座談形式で意見交換を行い会員全体での情報共有を図る。

Web2.0、SOA 他最新技術交換

少し気になる技術の情報を全員で考え活用方法を検討

Web2.0、SOA等の技術検証実装

仮想システムを通じたWeb2.0、コミュニケーション、SOA検証実装

XML関連事例による傾向の分析

収集方法の検討、収集事例の蓄積、蓄積された事例の分析を実装要素を交えて実施

地域性を生かした実装モデルの調査

学校、団体との共同研究を目指し活動

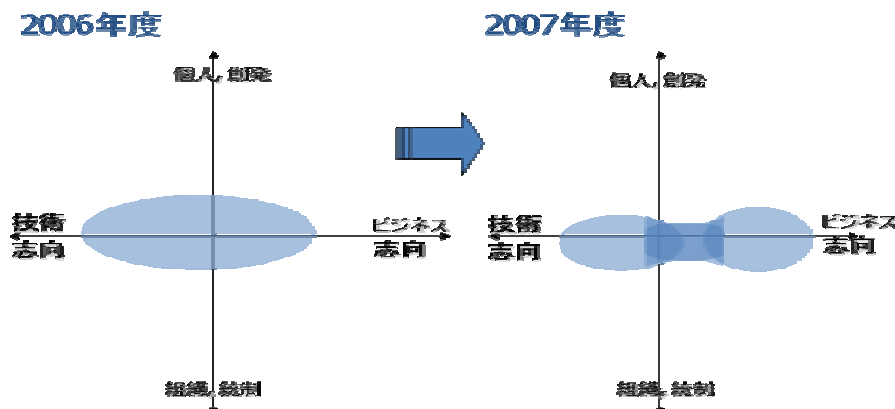
情報発信

セミナー実施

活動メンバーの増加を目指し企画

活動の位置づけ

活動の位置づけを下図に示す



昨年度は、参加者が属する企業に還元できる活動を心がけて実施してきたが、部会の継続性を高めるために、更に企業への還元を心がけた活動を行う。

活動方法

- 月例ミーティングでのFace-to-faceのディスカッション
- メーリングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
- 月例ミーティングにおけるテーマ持ち寄りの意見交換会
- コミュニケーションツールを活用したオンライン検討
- 他団体、学校との連携

活動成果

- 実装経験の共有
- 未経験からの実装における情報の公開
- 調査内容、意見交換内容の公開
- 着目技術については、活動のミーティングで決定

2007 年の重点施策

関西での活動において、更なる確固とした地盤として恒常的な拠点とすべく、更に多くの方々に参加して頂けることを重点課題とする。

参加者の増加、更に活発な活動の場とすべく、活動のシナリオを以下に記載する。

- (1)習熟度に依存しない環境の提供
オンライン情報共有環境の提供
実装技術習得環境の提供
- (2)意見交換の活性化
実装による経験機会の提供
意見交換情報の提供
- (3)関西に拠点を置く団体との共同研究
団体、大学との意見交換の実施

対象者

XML コンソーシアムの会員で関西における活動に興味をもたれる方
定例 Meeting やオンラインにおける意見交換に参加でき、情報の共有に努めることが可能な方

会員メリット

関西を中心とした参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立
多様なコミュニケーション方法の実践
実装を通して技術の習得
Web サービス活用環境の提供

体制

ワークグループ

全員で共通認識を持つ観点より、現状は作成しない。
但し、活動テーマにより、テーマグループの事前討議は状況により行う。

体制案

開催時に、活動メンバーにより、リーダーの決定及びサブリーダーの有無を含め、検討する。

[2006 年度関西西部会活動実績]

活動目的:

関西で活動を行える会員間での、情報交換と交流を全体の目的とする。参加会員による活動内容の希望を尊重し、XMLを核とした情報交換を中心に地域に密着した活動を行う。更に、昨年度作成したWebサービスを有効に活用して実装技術の習得を行える環境を提供する。これらを通じて、関西でのXML、Webサービス、SOA等の普及活動の活性化に努める。

活動内容:

関西西部会報告会並びに関西部会説明会、関西Day実施
部会と同様の活動の報告会と初年度関西西部会の説明会を実施(6月20日)
活動内容の検討
2005年7月より月次 Meeting
XMLの活用状況、事例収集調査の拡大の検討
昨年度実施した事例収集の新規カテゴリの追加
収集の自動化の検討
収集DBの検討
事例収集システム化の検討
XML 関連新技術実装技術の習得と試用
使用者、開発者にやさしい Web2.0 的アプリケーション構築
Web サービス実装
Ajax
外部サービス活用
作成部品のウィジェット化

実社会コミュニケーションにおける情報共有Toolの活用の検証
実社会(開発現場)コミュニケーションの種別調査
適用情報共有TOOLの調査
情報共有環境構築
実部会プロジェクト試用検証

活動期間

2005年6月～

成果物

XML事例収集方策検討資料
Web2.0的アプリケーション及びサービス基盤
開発者、使用者にやさしい基盤の構築
実組織コミュニケーションとTOOL活用局面検討

エンジニアマインドVol2執筆

「Web2.0的アプリケーション構築」

(12) XMLDB部会活動要綱案

1. 活動目的

本年1月、XML Query (XQuery) 1.0 が正式勧告され、同時に各ベンダーから続々とXMLDB 製品がリリースされており、XMLデータ処理の共通基盤が整ってきた。その基盤の上に従来のRDBベースのシステムとは異なる、新しいIT利用への期待感が昂まっている。そうした背景の下、本部会はXQueryおよびXMLDBの技術的理解、利用方法、適用領域の追求とその情報公開、啓蒙を通じて市場形成に寄与することにより、XMLの普及促進とXMLDB技術者の拡大に一層の弾みをつけることを目的とする。

2. 活動内容

- (1) XML Query Use Casesの翻訳、副産物としてXQueryにフォーカスした訳語集を作成、整備。さらに周辺技術に関する翻訳活動や支援環境の整備を行う。
- (2) XMLDBを実際に使ったプロトシステムの開発とそれを通じてXMLDBの特性や利用方法や心得集、RDBとの比較の公開、提案。それらを通してXMLDBを利用するシステム構築のメトリロジーの集成を行う。
- (3) XMLDBベンダー、XML関連製品ベンダー、実ユーザーから、システム開発会社等から事例を収集、研究し、XMLDBが得意とする利用領域を公開、提案していく。それらを通してXMLDBから想起される新サービスやビジネス・イノベーションを提案していく。

3. 活動方法

- (1) 技術系ワーキンググループとマーケティング系ワーキンググループに分かれてそれぞれテーマと成果物を設定する。
- (2) 毎月1回のミーティングでのディスカッション、情報交換
- (3) 随時、Wiki、メーリングリストによるオンラインコラボレーション
- (4) XMLコンソーシアム他部会および他団体とのコラボレーション
- (5) XMLDBベンダー、XML関連ベンダーとのタイアップイベントの企画実行
- (6) Webページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
- (7) XMLコンソーシアムDay、XMLコンソーシアムWeek、その他イベントでの活動報告

4. 成果物目標(案)

- ・ XML Query Use Cases 日本語版
- ・ 訳語集
- ・ W3Cドキュメントの翻訳
- ・ W3Cドキュメントの整理(W3Cの歩き方)
 - ・ 各ドキュメントのアブストラクション
 - ・ W3C逆引きインデックス(「やりたいこと」から参照すべきドキュメントを割り出すインデックス)
- ・ XQueryのチュートリアル、TIPS集の作成
- ・ 教科書の作成
- ・ 市販書籍の翻訳・出版
- ・ XMLDBを利用したサンプルアプリ
- ・ XMLDB利用の心得集
- ・ XMLDB利用システムの開発手法
- ・ XMLDBユーザーインタビュー集
- ・ 業界、業種別XMLDB適用モデル集

5. 活動期間

2007年6月 ~ 2008年5月

6. 対象者

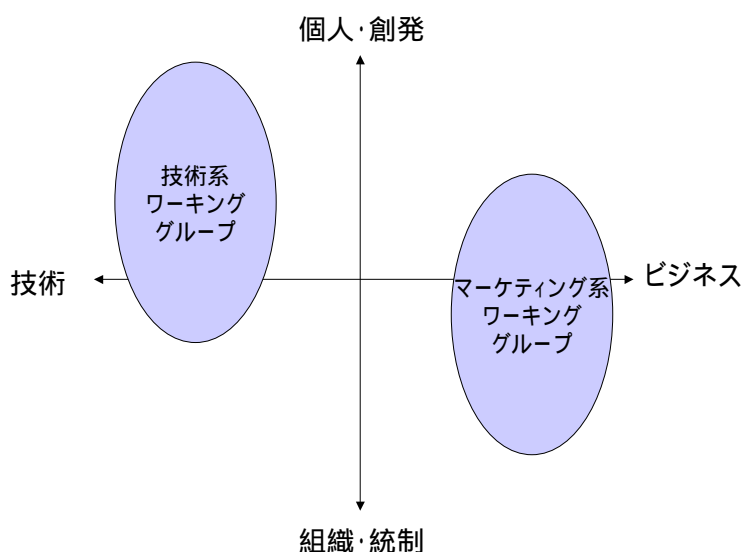
- (1) 技術系ワーキンググループ
XMLコンソーシアムの会員でXMLDBやXQueryの技術や開発手法に関心があり、上記2.(1)、(2)の活動に参加希望される方。
- (2) マーケティング系ワーキンググループ
XMLコンソーシアムの会員でXMLDBの利用シーンや適用業務、市場性などビジネス方面で興味がある方。

7. 会員メリット

- (1) XMLDB、XQuery初級レベルからステップを踏んだスキル・アップ
- (2) XMLDBの活用方法や適用分野に関するノウハウ、提案力の蓄積

(3)参加メンバーや製品ベンダーとの情報交換、人的ネットワークの確立

8.位置づけ



9.体制

部会リーダー、サブリーダー(技術系サブグループ・リーダー、マーケティング系サブグループ・リーダーを兼ねる)は2007年度の最初のミーティングで決定する。

【本部会前身である XMLDB 勉強会の活動実績】

- ・ 第1回 XMLDB 勉強会・XMLDB セミナー併催(2006.10.4)
- ・ 第2回 XMLDB 勉強会(2006.12.2)その後マーケティング系サブグループ、技術系サブグループとして活動
- ・ XML コンソーシアム Day にて「XMLDB 勉強会、活動の意義と目標」発表(2006.12.11)
- ・ XML データベース事例セミナー参加(2007.1.23)
- ・ XML コンソーシアム Week にて活動成果発表(2007.5.18)
- ・ マーケティング系サブグループによる XMLDB ベンダー訪問
 - 日本 IBM 社訪問(2006.12.2)
 - サイバーテック社訪問(2007.1.10)
 - 日本オラクル社訪問(2007.2.5)
 - 三井物産セキュアディレクション社訪問(2007.4.19)
 - 東芝・メディアフュージョン社訪問(2007.5.24)
- ・ 技術系サブグループによる月例ミーティング。
2006年12月～2007年4月の期間、月一回実施された。

(13) XMLマスター勉強会活動要綱案

活動目的

会員アンケートなどからもXMLの着実な普及が進んでいる状況であるが、一層の普及・利活用にはXML開発者のさらなる増加が不可欠と考えられる。

この課題への取組みとして、XML技術者認定制度「XMLマスター」に関する勉強会を、XMLマスター主催元でアライアンスパートナーであるXML技術者育成推進委員会のご協力のもと実施する。

活動内容

以下のXMLマスター各資格試験の直前対策セミナーを1回ずつ行う。

今年度より新設される資格(データベース)に対応したセミナーも行う。

- ・XMLマスター:ベーシック直前対策セミナー
- ・XMLマスター:プロフェッショナル直前対策セミナー
- ・XMLマスター:プロフェッショナル(データベース)直前対策セミナー【新設】

活動方法

XML技術者育成推進委員会のご協力の下、講師を派遣いただき、以下のような内容でセミナーを実施する。

- ・XMLマスター試験のポイント
- ・模擬試験
- ・解答の解説とポイントの説明
- ・質疑応答

なお、資格試験に関しては、各受講者にて別途受験していただく。

< 2007年度の活動方針 >

本年度もXML技術者育成推進委員会のご協力のもと、昨年度同様に参加者の高い満足度が得られるよう勉強会を実施する。

今年度から新設される予定のデータベース試験に対応したセミナーも実施する。

活動スケジュール(予定)

2007年 9月 ベーシック直前対策セミナー

2007年11月 プロフェッショナル直前対策セミナー

2008年 3月 プロフェッショナル(データベース)直前対策セミナー

対象者

- ・XMLマスターを取得しスキルアップを考えている会員。

会員メリット

- ・XMLマスターを取得しスキルアップを考えられている方にとって、タイムリーで有益な知識を身につけることができる。
- ・実際にXMLを使ったシステムを構築する際にも役立つ情報を得ることができる。
- ・受験費用の優待。

体制

XML技術者育成推進委員会 運営事務局と、XMLコンソーシアム 事務局および運営委員会 セミナーイベント企画グループにて、企画・運営を行う。

[2006年度 XML マスター勉強会活動実績]

活動成果

< 2006年度の活動実績 >

- ・ベーシック直前対策セミナー(2006年9月13日@日立製作所・大森)
参加25名。アンケート結果(非常に満足:14名、満足:8名、不満足:0名)。
- ・プロフェッショナル直前対策セミナー(2006年10月31日@日立製作所・大森)
参加29名。アンケート結果(非常に満足:16名、満足:10名、不満足:0名)。

満足度は他のXMLコンソーシアム・セミナーと比較しても高い評価で、今後も本セミナーの実施を希望する意見も多かった。

(14) 内部統制勉強会活動要綱案

背景:

- ・ 会社法の施行、金融商品取引法の成立により内部統制の実現が注目されており、また、そのITによる実現手法にも関心が集まっている。
- ・ 内部統制自体はXMLによって実現されるものではないが、その実現手法の中でXMLを活用することにより、効果的に内部統制を実現できる可能性が秘められていると考える。
- ・ H18年に実施したXMLコンソーシアムセミナー「内部統制入門」でも、聴講者の関心は高く、内部統制実現におけるXMLの活用検討に関する要望が出されている。

< セミナーアンケートの中の声 >

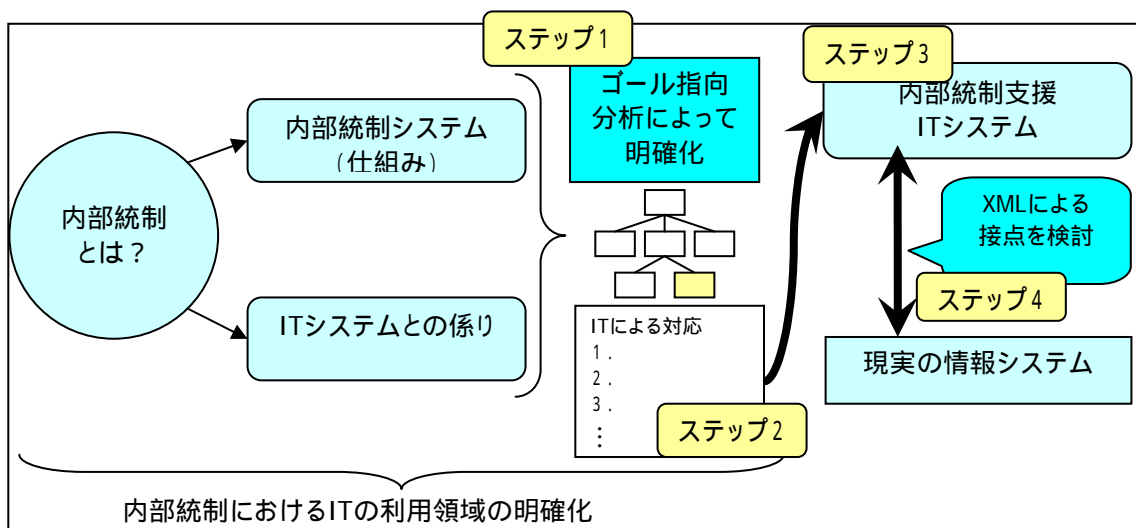
- 内部統制におけるXMLの具体的活用方法をセミナーテーマとして取り上げて欲しい。
- 内部統制におけるドキュメント管理で、XMLの可能性は十分に期待できると思った。
- 継続して「内部統制の応用(詳細、構築例)等」のセミナーを開催して欲しい

活動目的:

- ・ 内部統制実現の中での XML 技術適用可能性の検討

活動内容:

- ・ 以下の検討ステップに基づいて活動を実施する。
 1. 内部統制を実現するために必要な内部統制の仕組み(内部統制システム)を、ゴール指向分析手法を利用して明確化
 2. 内部統制システムとITシステムとの係り = 「ITによる対応が可能な部分」を明確化
 3. 「ITによる対応が可能な部分」を内部統制支援ITシステムとして実現する方法を想定
 4. XMLを活用して、内部統制支援ITシステムと現実の情報システムを連携して動作させる方法を、サンプルシステム等を利用して検討



2007年度の活動予定:

- ・ ステップ1の継続実施
- ・ ステップ2、3の実施

活動方法:

- ・ 勉強会を月1回の頻度で開催

勉強会開催期間: 2007年9月末までを目処(ステップ3の終了まで)

- ・ 勉強会としての実施は、ステップ3までとする。
- ・ ステップ4については勉強会としての活動レベルを超えられことから、部会として活動を継承することを目指す。ただしその際、現在の勉強会メンバだけでの実施は困難と考えられるため、参加メンバの増強、他部会との連携等が実現できていることを前提条件とする。

【2006 年度内部統制勉強会活動実績】

- ・活動内容の全体像整理と、検討ステップ、検討スコープの明確化を実施
- ・ステップ1の取り組みを開始
- ・先進ユーザの取り組み事例紹介
 - CONTROL2006に関する取り組み紹介(日本オラクル、ディサークル)
 - 内部統制タクソノミの取り組み紹介(富士通)

以上